

JAPAN PRIZE 2018
第45回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

2018年11月2日（金）～9日（金）

【参加国】65の国と地域 【参加作品数】378作品

「日本賞」 一次審査通過作品

コンテンツ部門・5カテゴリー

| | |
|-----------------|------|
| ①幼児向け(0歳～6歳) | 13作品 |
| ②児童向け(6歳～12歳) | 14作品 |
| ③青少年向け(12歳～17歳) | 13作品 |
| ④一般向け(18歳以上) | 9作品 |
| ⑤クリエイティブ・フロンティア | 6作品 |

企画部門

アルゼンチン、ブータン、ジャマイカ、メキシコ、モンゴル(アルファベット順)
の5企画

詳細は <http://www.nhk.or.jp/jp-prize/>

主な日程 [開催期間:11月2日(金)～9日(金)]

| | |
|----------|-----------------------------|
| 11月2日 | 開会レセプション、審査 |
| 11月2日～8日 | 審査、一次審査通過作品上映会 |
| 11月6日～8日 | 公開プレゼンテーション審査・「教育」を考えるセッション |
| 11月9日 | 授賞式 |

会期中の主なイベント

コンテンツ部門クリエイティブ フロンティアカテゴリー(デジタル作品)と企画部門の公開プレゼンテーション審査ほか、「日本賞」の公開イベントを、今年はNHKを飛び出し、さまざまな活動をしている人たちとのコラボレーションで実施します。

【公開プレゼンテーション審査】 11月6日(火)

○コンテンツ部門クリエイティブ フロンティアカテゴリー@100BANCH(ヒャクバンチ・東京渋谷)

デジタル技術を使って教育の可能性を開くコンテンツを競うカテゴリー。世界6か国から来日したファイナリストが、最終プレゼンを行います。会場となる100BANCHは、さまざまなアイデアを持った若い人たちが集まる、ちょっと変わった実験施設。プレゼンテーションのあとは、ファイナリストと100BANCHのコラボで、「未来の教育を考える」をテーマに、ワークショップを行います。

○企画部門@JICA 地球ひろば(東京 市ヶ谷) 11月7日(水)

機材や予算が十分ではない国や地域の制作者が、教育テレビ番組の企画を競う企画部門。最優秀賞受賞者には賞金10,000ドルが贈られ、これを制作費として企画を実現することができます。本審査に挑むのは5人のファイナリスト。JICA 地球ひろばで、国際協力・国際理解に関心の高い人たちを招き、交流します。

午後は2017年度の企画部門最優秀賞作品(ミャンマー『理想郷への手紙』)の上映と、制作者のトークセッションを行います。

○パネルディスカッション「マイノリティーのためにメディアができること」

@NHK ふれあいホール 11月8日(木)

エントリー作品を見渡すと、「難民」「LGBT」「障害者」「いじめ」…など、マイノリティーが置かれている厳しい状況に取り組む、制作者の姿が浮かびます。作品の中に描かれる世界の状況に思いをはせ、テレビをはじめ、メディアは何ができるのか、考えるセッション。

エントリー作品の上映、制作者トークなども行います。